

学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

看護科（科目名）学習指導案

〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組
 令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名

◇単元とは、生徒に指導する際の内容や時間のまとまりを各学校の実態に応じて適切に構成したものである。単元を構成するには、学習指導要領に示されている〔指導項目〕を幾つかに分割して単元とする場合や、そのまま単元とする場合、幾つかを組み合わせる場合等、様々な場合が考えられるため、各校において生徒や地域の実態、学科の特色に応じて適切に単元を設定する。

2 単元の目標

◇学習指導要領の〔指導項目〕を基に、単元全体を通して、単元の目標を設定する。

- 例（1）「知識及び技術」に関する目標（例：～理解する。～身に付ける。等）
 （2）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～解決策を見いだす。等）
 （3）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標
 （例：～主体的かつ協働的に取り組む。等）

3 単元の評価規準

- ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」等を参考に適切に設定する。
 ◇「知識・技術」については、学習指導要領の「2 内容」の各指導項目に対し、学習指導要領解説の〔指導項目〕の大項目ごとに示された「このねらいを実現するため、次の①から③までの事項を身に付けることができるよう、〔指導項目〕を指導する。」の①を参考にする。
 ◇「思考・判断・表現」については、上記の②を参考にする。
 ◇「主体的に学習に取り組む態度」については、上記の③を参考にする。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識について （単元の目標に対して） ～理解している。 等 ・技術について （単元の目標に対して） ～身に付けている。 等	（単元の目標に対して） ～解決策を見いだしている。 等	（単元の目標に対して） ～主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 等

4 指導上の立場

- 単元観
- 生徒観
- 指導観

◇指導者の立場で書く。

- ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」（何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか）も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その単元の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。
- ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する学級の課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

5 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価		評価規準及び評価方法
			観点	記録	
一	1	◇生徒の立場で書く。	思		○○について考え、表現している。 【ワークシート】
	2		知		○○について理解している。【授業ノート】
二		◇「知」は「知識・技術」、 「思」は「思考・判断・表現」、 「態」は「主体的に学習に取り 組む態度」を示している。	態	○	○○を振り返り、今後実践していこうとしている。【ワークシート】
三					◇「記録」の欄の「○」印は、評価規準に照らして、生徒全員の学習状況を記録に残す場面として示している。空欄は評価を行わないことではなく、形成的な評価に重点を置いて、生徒の活動を見取り、次の指導に生かしたり、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などについて積極的に個人内評価を行ったりする。
		◇記録に残す評価の設定は、単元に応じて適切に設定する。定期考査等の活用も考えられる。			

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1		
◇生徒の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
目標	◇単元における本時の位置づけを踏まえ、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。	◇単元を通して資質・能力を育成する力を踏まえ、本時の評価規準を具体的に表現する。評価の場面は1、2箇所絞る。評価規準に合わせた観点・評価方法を明確に記述する。評価方法を具体的に書く。
2		
◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。	◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・生徒が主体的に学習を進めるための手立て ・生徒が対話的に学習を進めるための手立て ・生徒が学習を深めるための手立て ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等	
◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。	◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。	
3		
4		
まとめ	◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
5	◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート、実習プリント等、必要な準備物を書く。